

第44回関東学童軟式野球大会兼神奈川県学童軟式

野球大会（東京新聞カップ）開催

主催 神奈川県野球連盟

主管 神奈川県少年野球連盟学童部

1. 開催期間 2021年7月3日(土)・4日(日)・10日(土)・24日(土)
2. 大会会場 境川遊水地公園少年球場・相模三川公園グランド・茅ヶ崎市営球場
3. 出場チーム 神奈川県野球連盟各支部代表24チーム
4. 出場資格 各支部大会での優勝チームもしくは支部長の推薦にて本大会
に出場可能なチーム
5. 大会規定 (公財)全日本軟式野球連盟発行の競技者必携にもとづく
6. 大会参加費 1チーム ¥12,000(主将会議に持参のこと)
7. 参加締切 6月27日(日)主将会議に参加申込書2通提出
8. 主将会議 6月27日(日) 於、かながわ労働プラザ 午後6時
(横浜市中区寿町1-4 Tel 045-633-6110)
出場チームは成人1名・主将1名【ユニホーム着用】で出席
9. 閉会式 7月24日(土)準決勝・決勝 閉会式午前9:00
於、茅ヶ崎市営球場 午前9:00
10. 関東大会 8月7日～8月8日 於、東京都
神奈川県大会で優勝チームが出場
11. 後援 神奈川県・東京新聞・東京中日スポーツ・横浜 DeNA ベイスターズ
(財)横浜野球友の会・神奈川県新聞社
12. 問い合わせ 神奈川県野球連盟 Tel045-681-1189(事務局)
県学童部 Tel045-334-3509(今村方)

大会運営に関する事項

学童部の大会は、野球公認規則、競技者必携および大会特別規則を適用します。

1. 参加資格

(1) 小学生で編成され登録された単独チームとします。

【注】大会だけのために編成されたチームの参加は認めません。

(2) 選手の登録は 10 名以上 20 名以内とし、男女を問いません。

2. 会議は、監督主将会議とする。

監督主将会議には、監督とユニフォーム着用の主将が出席すること。

① 監督主将会議で、抽選会を行います。

② 会議で決められた事項は、チーム全員に必ず徹底させてください。

3. 大会特別規則

(1) 試合は 7 回戦とし、試合開始の「プレイ」宣告後、1 時間 40 分を経過したらそのイニングが最終回となります。

【注】決められた時間が経過したら、回数に関係なく正式試合となります。

(2) タイブレイク方式（特別延長戦）

7 回を終了して同点の場合、決められた時間が経過して同点の場合はタイブレイクで行います。

タイブレイク方式は、無死一塁、二塁・継続打順とし前回の最終打者を一塁走者、その前の打者を二塁走者（投手は除いてもよい）とし、無死一塁の状態にして 1 イニング行い、得点の多いチームを勝ちとします。勝敗が決定しない場合は、更に継続打順で 1 イニング行います、なお勝敗が決定しないときは抽選で勝敗を決定します。

【注】大会の運営上 7 回が終了するか、決められた時間が経過して同点の場合は、タイブレイク方式を行わず、抽選で勝敗を決定する場合があります。

（抽選）抽選は○×式とし、○印の多いチームの勝ちとします。

(3) 得点差によるコールドゲーム

点差によるコールドゲームは、3 回 10 点差、5 回 7 点差とします。

(4) 特別継続試合

試合が 5 回以前に中止になった場合（ノーゲーム）でも、5 回が過ぎて同点で

試合が中止になった場合（正式試合でタイゲーム）でも、再試合にしないで翌日又は後日特別継続試合として試合が中止になったイニングから試合を継続して行います。

なお、特別継続試合は、中断された試合と通算して 1 時間 40 分まで行います。

(5) 投手の投球制限

投手の投球については、肘、肩の障害防止を考慮し、一日 7 イニングスまでとします。

但し、タイブレイク方式の直前のイニングスを投げ切った投手に限り

一日最大 9 イニングまで投げることができます。

【注】投球イニングに端数が生じたときの取り扱いは三分の一回（アウト一つ）

未満であっても一イニング投球したものとして数えます。

又、投手の投球制限について野球肩・野球肘の障害防止を考慮し、1 日の投球数は 70 球を目安とします。

競技運営に関する事項

- その日の第1試合は試合開始予定時刻の**30分前**までに、第2試合以降は前の試合の4回終了時までには打順表4通（登録された全員を記入し、必ずふりがなを付けたもの）を監督と主将が大会本部に提出し、登録原簿と照合ののち、球審立合いのもとに攻守を決定すること。
【注】前の試合が早く終了した場合は、次の試合を試合開始予定時刻前に開始することがありますので、試合開始予定時刻**60分前**には球場に到着して前の試合の経過に注意してください。
- ベンチは、組み合わせ番号の若いチームを一塁側とする。
 - 試合中ベンチに入れる人員は、登録されユニフォームを着用した監督**30**番
コーチ**29**番・**28**番及び選手**20**名以内と、チーム代表者、マネージャー
スコアラーとします。
【注】選手は、必ず**10**名以上ベンチに入らなければならない。
なお、ベンチに入れる全員が、スポーツ傷害保険に加入し、大会期間中に起きた傷害事故等は、当該スポーツ保険の適用を受けること。
また、健康保険の被保険者名と番号の控えを持ってきてください。
 - ベンチ内で電子機器類（携帯電話、パソコン等）携帯マイクの使用を禁止する。
なお、ベンチ内でメガホン一個に限り使用ができます。
- 使用球と用具・装具
 - 大会使用球は(公財)全日本軟式野球連盟公認ナガセケンコーボール**J**号ボールとし大会本部で準備します。
 - チームはユニフォーム、アンダーシャツ等は、同色、同形、同意匠の物を使用すること。但し、金具の付いたスパイクは使用できません
尚、裾幅の広いストレートタイプのユニフォームの着用は禁止します。
 - ユニフォームの袖の長さは両袖同一で、左袖に日本字又は、ローマ字による県名を必ず付けなければなりません。
尚、他のものを付けることはできません。
 - バット
金属製バット・ハイコンバットは、**JSBB**のマークの付いた公認バットを使用すること。
 - 捕手の装具
捕手は、連盟公認のマスク・ヘルメット・プロテクター・レガーズを使用すること。また、危険防止のためフェールカップも必ず装着すること。
 - 打者、次打者、走者、ベースコーチも連盟公認のイヤーフラップ付きのヘルメットを着帽すること。
- シートノック行う場合は**5分間**を限度とします、シートノックの時、補助員としてコーチ（背番号**28**、**29**）も認めます。
ただし、大会運営上シートノックを行わず試合を開始することもあります。
- 球場内での練習は外野に限り行うことを認めます（フリーバッティングは厳禁です。）
- 申告故意四球については採用致します。
守備側チーム監督が審判員に故意四球の意思を伝えた場合（ボールデッド）打者にはボール**4**個を得たときと同じように一塁へ進むことが許される。

7. 小雨の場合でも、球場の使用が可能な場合は試合を行うことがあります。

8. 雨天時の連絡先

学童部事務局 045-334-3509 携帯 090-2651-0767 (今村)

学童部審判長 045-713-9611 携帯 090-4725-6265 (伊藤)

学童部育成委員会 046-223-2507 携帯 090-4664-0535 (坂井)

連盟取り決め事項

1. ファウルボールの処理について

ファウルボールが打たれた場合は、一塁側のものは一塁側ベンチが、三塁側のものは三塁ベンチが、本塁後方のものは攻撃側で処理してください。

2. 攻守交代の時には、ボールを必ず投手板近くに置いて交代すること。

3. 試合のスピードアップについて

(1) 準備投球について

投手の準備投球は、試合開始の表裏及び救援時には投手は捕手を相手に5球(時間にすれば1分以内)とし、次回からは3球とします。

(2) 攻守交代について

攻撃側は、第三アウトが成立したら、プレーヤーは速やかにベンチを離れて駆け足で守備に向かうこと。特にバッテリーは、準備投球があるから、率先してベンチから出ること。

(3) 守備側のタイムの回数制限について

捕手を含む内野手が、1試合に投手のところへ行ける回数は、7イニング試合にあっては3回以内とします。

尚、延長戦となった場合は、2イニングに1回行くことができます。

投手のところへ行くときは、往復を駆け足で行いプレイの開始を遅らせてはなりません。

(4) 攻撃側のタイムの回数制限について

攻撃側のタイムは、1試合に3回とします。なお、延長戦(特別延長戦も含む)は、2イニングスに1回とします。

(5) 内野手間の転送球について

内野手間の転送球は、一回りとし、打者が打者席で打撃姿勢を取る前までに投手に返球するようにしてください。

(注) 試合が著しく遅れている場合は、試合の進行を早めるため内野手間の転送球を禁止する場合があります。

(6) 内野手の投手への返球について。

投手に返球する内野手は守備位置を離れずに投げ渡してください。

(7) 投手の投球間隔について

投手は、捕手のサインを見るときは、必ず投手板について見るようにして下さい。

(8) 投手の塁への送球について

離塁していない塁への送球は遅延行為でボークになります。また無用と思われる塁への送球が度を過ぎると審判員が判断したら、反則行為とみなされます。

(9) 捕手について

投球を受けた捕手は、その場から速やかに投手に返球すること。

(10) 打者について

打者は、速やかに打者席に入って打撃姿勢をとること。

また、打者席内でサインを見ること。

次打者は、次打者席で低い姿勢で待機すること。投手も必ず実行すること。

(11) 走者について

ファールボールが打たれたときは、速やかに戻って、元の塁に触れること。

(12) 内野手について

内野手が投手の所へ集まるときは、往復を駆け足で行い、このためにプレイの開始を遅らせてはなりません。

(13) ベンチについて

ベンチから無用とおもわれるサインを送ることは許されません。

(14) その他の事項については、全日本軟式野球連盟発行の競技者必携、少年野球に関する事項を読んでください。

4. その他（記念写真の撮影について）

チーム集合写真等は「共同写真企画」が試合開始前に撮影します。

後日、同社から見本がチームに送付されますので、それを見た上で申し込んでください。

学童部の指針

「3プラス、1ない運動を」

★ 3つのない・「あきらめない」・「くじけない」・「投げ出さない」

★ プラス1・「失敗を失敗に終わらせない」